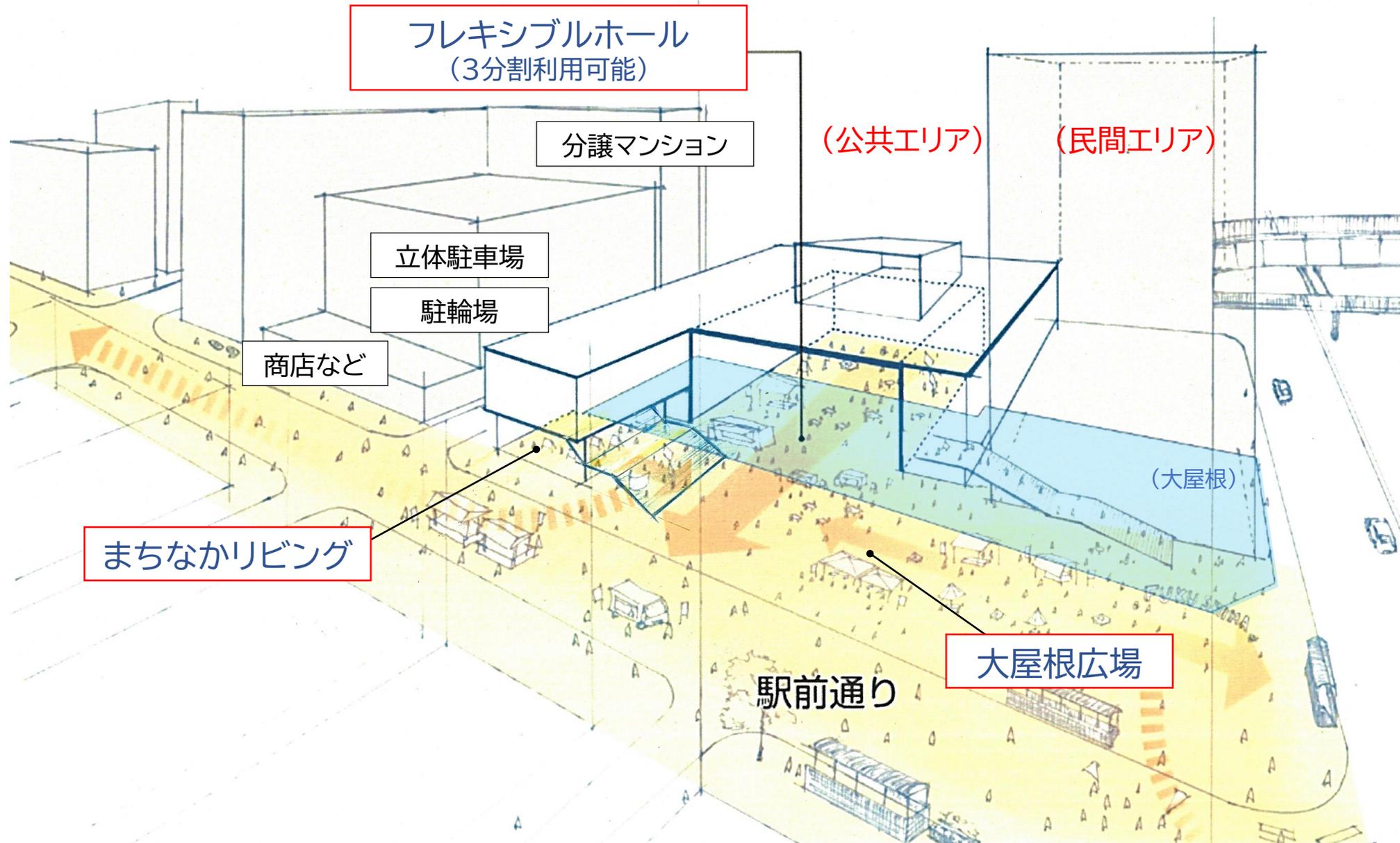


東口再開発タウンミーティング

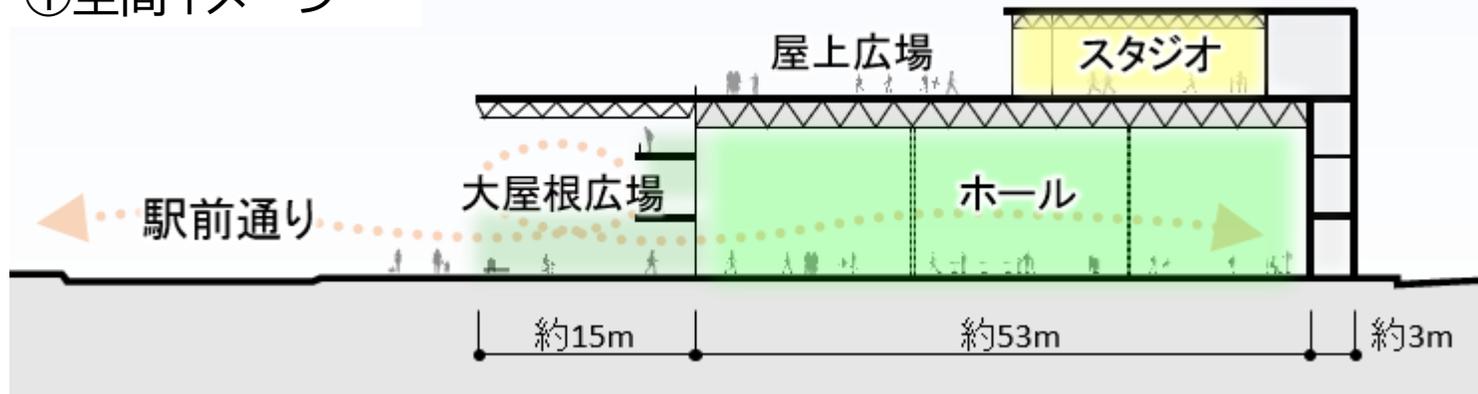


施設全体と駅前通りの鳥瞰イメージ

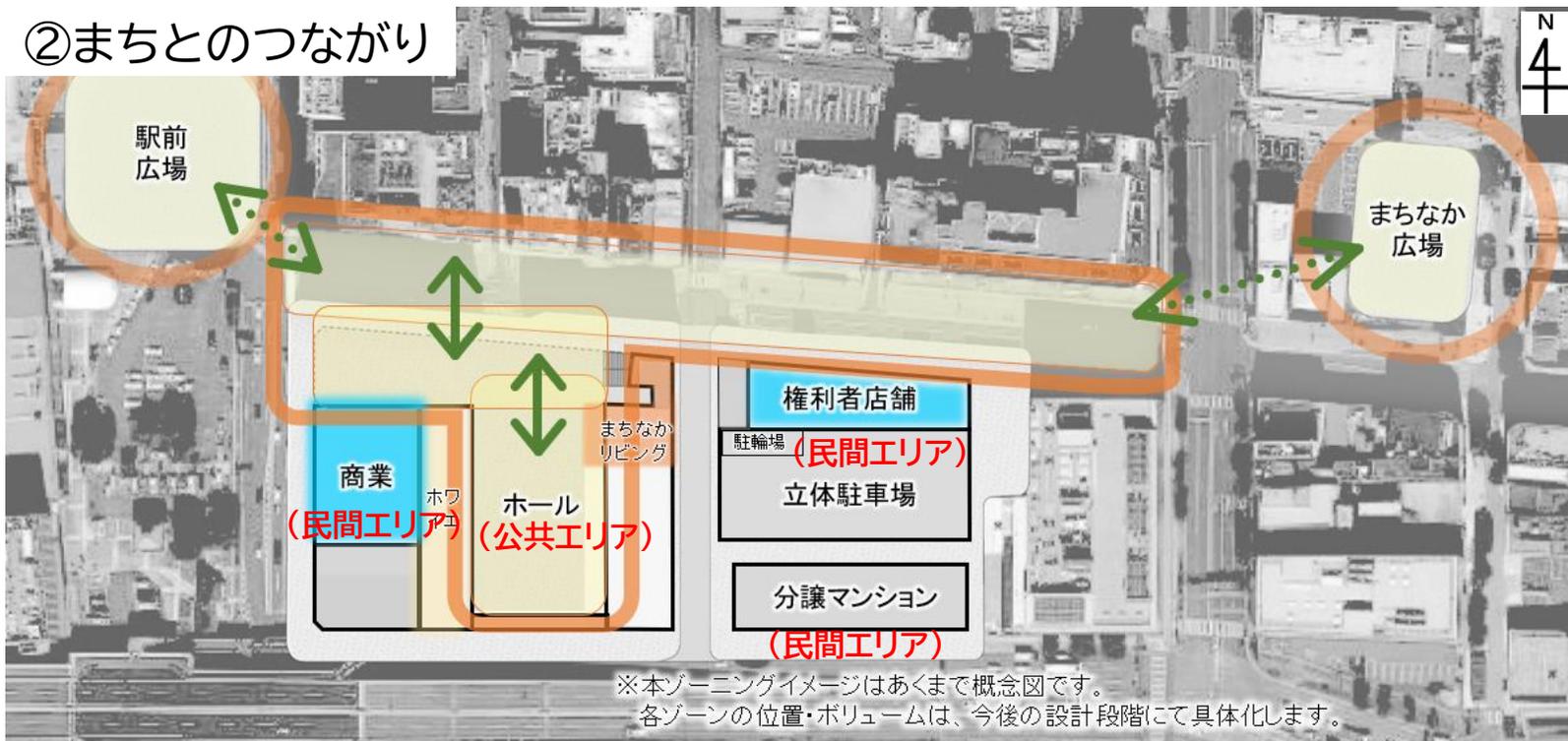


配置・断面等のイメージ

①空間イメージ



②まちとのつながり



※本ゾーニングイメージはあくまで概念図です。
各ゾーンの位置・ボリュームは、今後の設計段階にて具体化します。

【構造・階数・面積規模】

商業・事務所棟・・・鉄骨造・10階程度
17,500㎡程度

公共棟・・・・・・・鉄骨造・4階程度
13,000㎡程度

住宅棟・・・・・・・鉄筋コンクリート造・
13階
9,700㎡程度

駐車場棟・・・・・・・鉄骨造・6階
16,000㎡程度

③配置イメージ

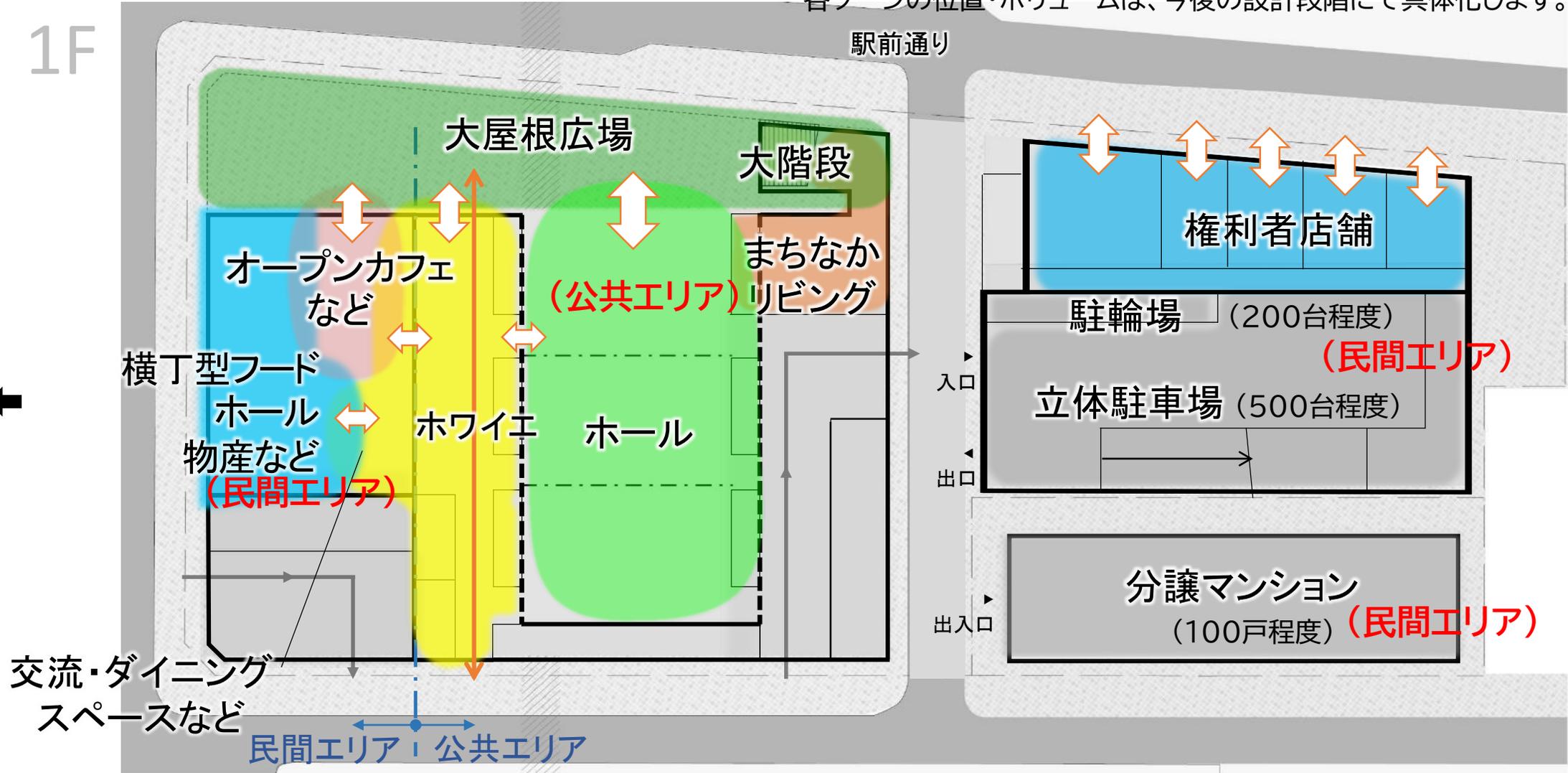
※本ゾーニングイメージはあくまで概念図です。
各ゾーンの位置・ボリュームは、今後の設計段階にて具体化します。

1F

駅前通り

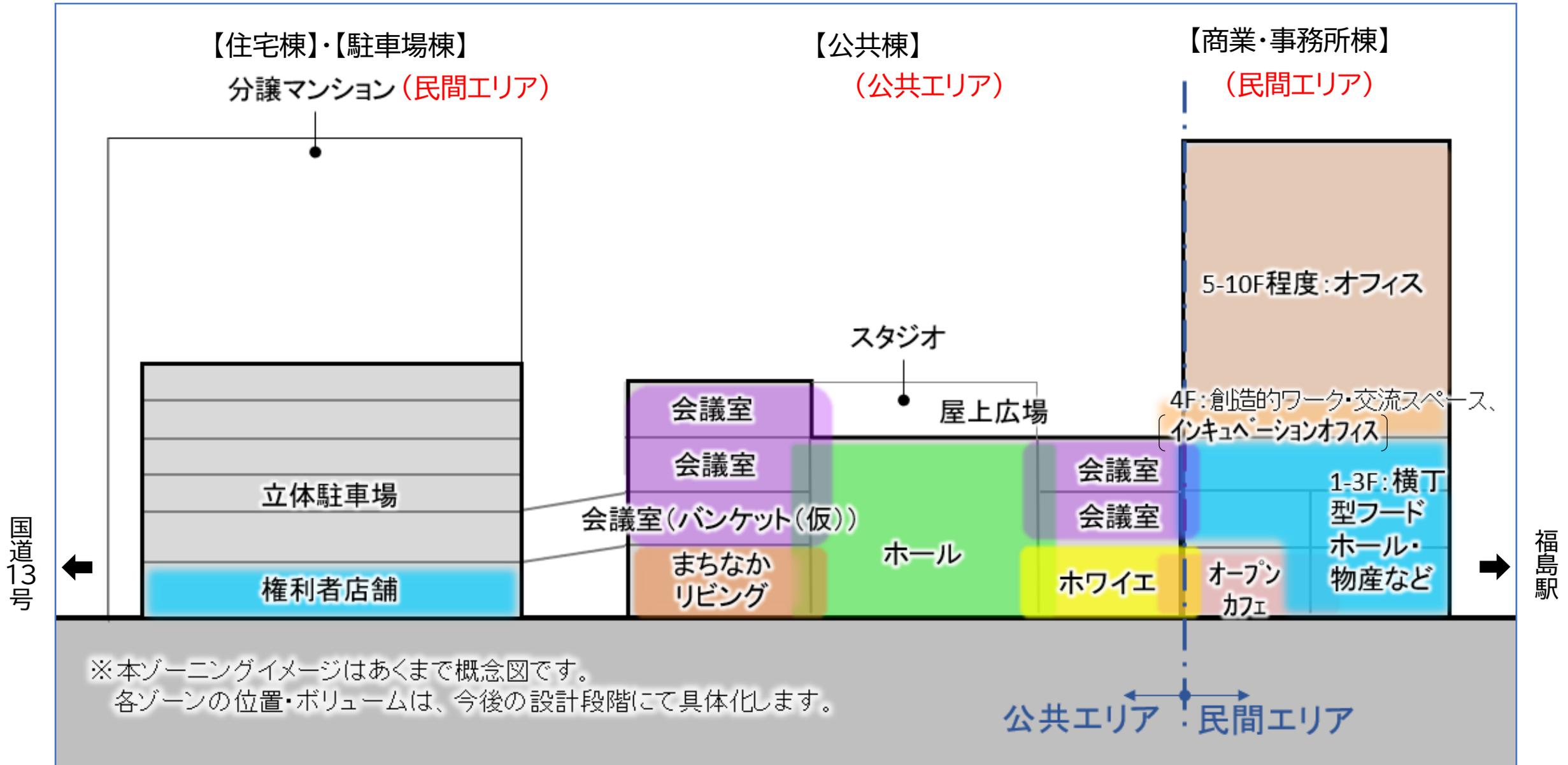
福島駅 ←

→ 国道13号



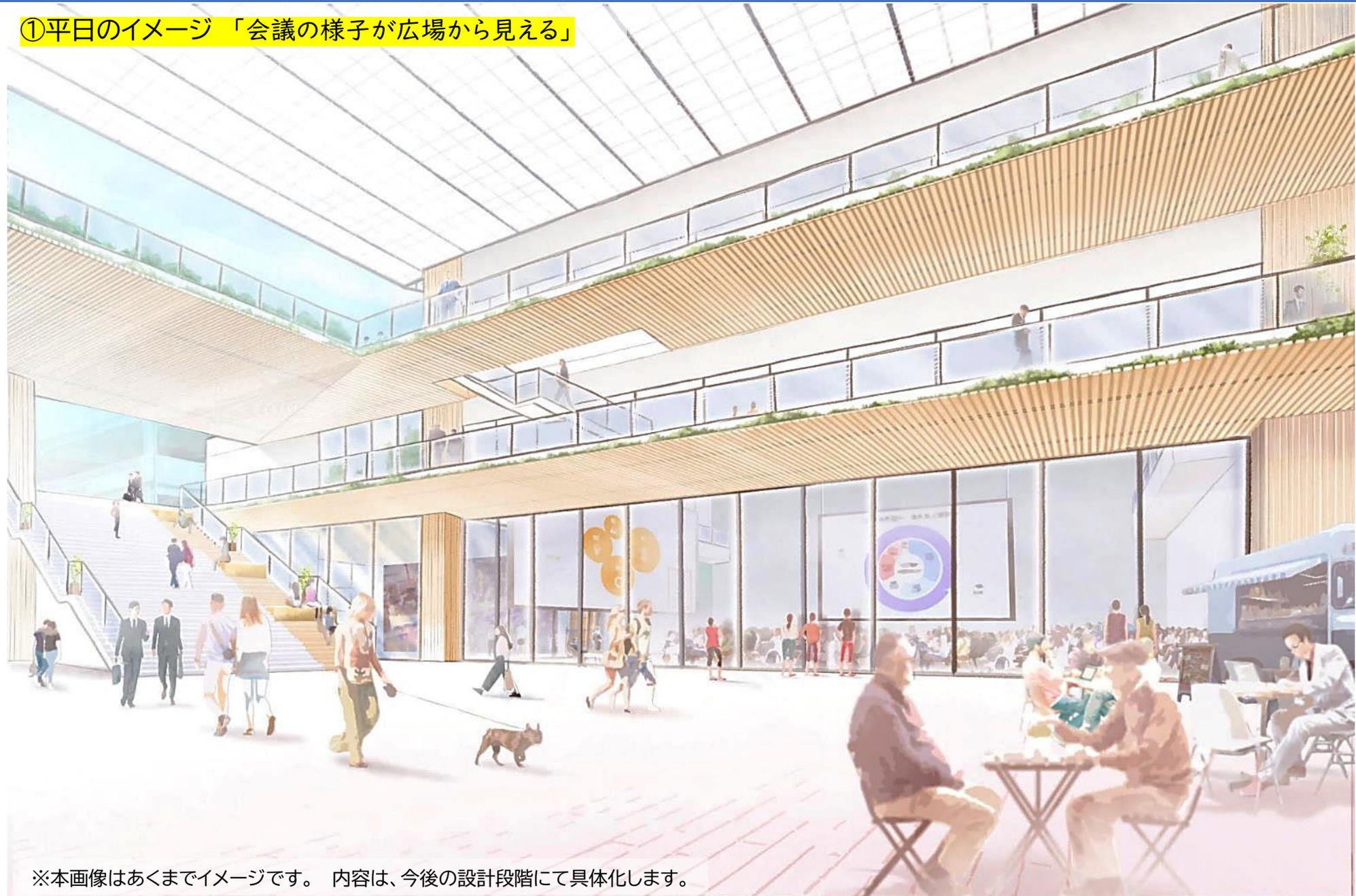
- 【凡例】
- ↔ 歩行者動線
 - ⇄ 連携
 - ↔ 荷捌き動線
 - 倉庫、WC、通路、荷捌き等

④断面イメージ



ホールと大屋根広場の利用のイメージ

①平日のイメージ 「会議の様子が広場から見える」



※本画像はあくまでイメージです。内容は、今後の設計段階にて具体化します。

ホールと大屋根広場の利用のイメージ

②休日のイメージ 「3×3に興じる、子どもの遊びを見守る」



※本画像はあくまでイメージです。内容は、今後の設計段階にて具体化します。

ホールと大屋根広場の利用のイメージ

③ライブイベントのイメージ「音楽ライブ、熱狂がまちにこぼれる」



※本画像はあくまでイメージです。内容は、今後の設計段階にて具体化します。

コンセプト

にぎわい・文化・つながりが
生まれる 《たまご》
= FUKUSHIMA EGG =

市内外の多彩な人々が、集まり、混ざり、触発しあい、
にぎわい・文化・つながりを生み出していく。
わくわくする未来が、つぎつぎと生まれる。

そんな豊かなたまごが福島駅前に誕生するよう、多様な利用シーンの実現を目指す。

にぎわい・文化・つながりが、つぎつぎと生まれる場。

- ・用がなくても立寄りたくなる
- ・集客力の高い催しが開催できる
- ・施設に閉じずまちに開けている

にぎわい

文化

- ・産学民が使いやすい
- ・多彩な目的に使える
- ・演出の自由度が高い

FUKUSHIMA EGG

つながり

- ・交流を生む環境がある
- ・市外からも人が集まる
- ・福島産品をはじめとして、多彩なものと接する

コンセプトに沿った、 この場所を実現していきたいシーン

この場で、具体的に
どのようなシーンが生まれるか。

シーン1 音楽に高揚する

にぎわい

文化

つながり

公共

民間

- ロック、ポップスなど音楽ライブの開催。
- ひろば側の建具を大きく開けることで、広場や駅前通りにもイベントがにじみだし、まちのにぎわいを。



ライブ



ホールと広場がつながる



平面イメージ

※上記はあくまでイメージのため、実際の計画内容とは異なります。

シーン2 コアなファンが集う

にぎわい

文化

つながり

公共

民間

- ・ アイドル、コスプレ、eスポーツなど、熱狂的なファンが集う様々なイベント。
- ・ 映像、音響、照明設備等、最新の演出技法により、新しい文化創造に寄与。



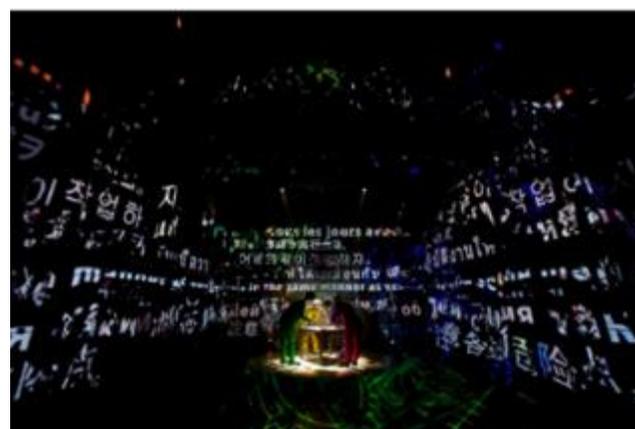
アイドルイベント



コスプレイベント



eスポーツ



映像や照明設備を使った演出



※上記はあくまでイメージのため、実際の計画内容とは異なります。

シーン3 スポーツで盛り上がる

にぎわい

文化

つながり

- バスケットボール、クライミング、ヨガ、ダンスなど、様々な屋内スポーツイベントに対応。
- ホールとひろばの一体利用により、市民が気軽に参加しやすい環境を創り出す。

公共

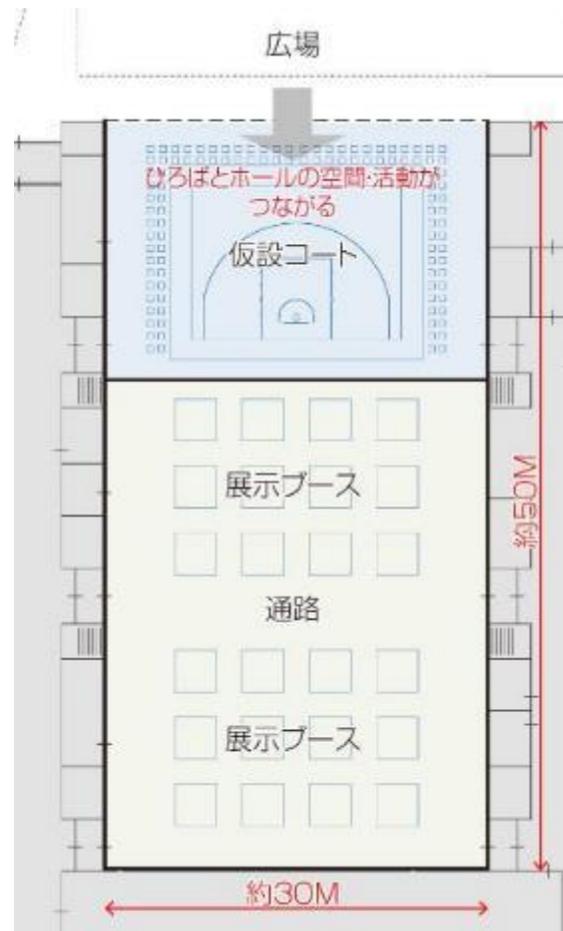
民間



バスケット (3on3)



クライミング



平面イメージ

※上記はあくまでイメージのため、実際の計画内容とは異なります。

シーン4 ふくしまの食にワイガヤする

にぎわい

文化

つながり

公共

民間

- レストランフロアでもなく、カジュアルなフードコートでもなく、福島的美味い食文化と、美味しいお酒とを気軽にワイワイ楽しめる新しいタイプの横丁型フードホール。
- グループでも一人でも、市民でも県外からの出張族でも、昼夜問わず気軽に入れて居心地の良い環境を創出。店と客、客同士の距離感が近い環境が交流・にぎわいを生みだす。



フードホールのイメージ

※上記はあくまでイメージのため、実際の計画内容とは異なります。

シーン5-1 文化パフォーマンスに酔う

にぎわい

文化

つながり

公共

民間

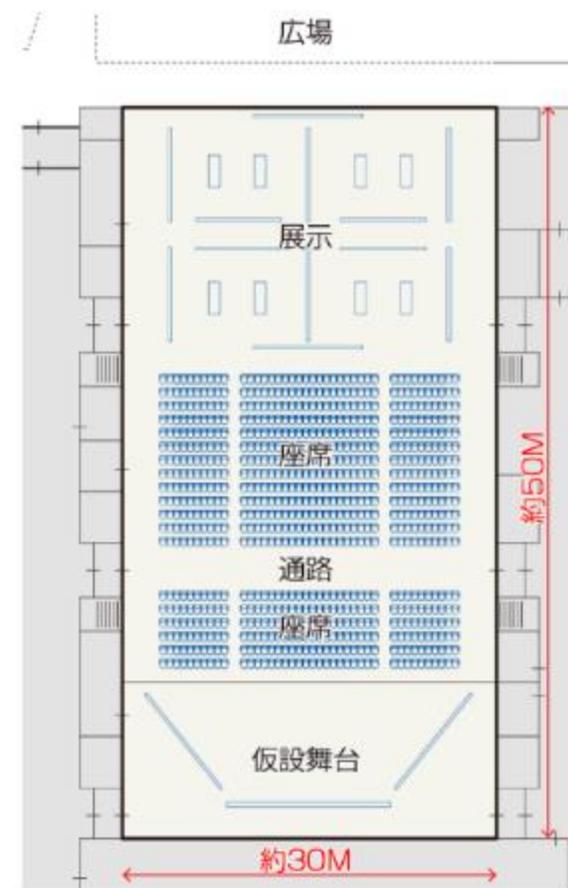
- 絵画、書道、華道、写真など、さまざまな文化展示はもちろんのこと、自由度の高いホールだからこそ、「最新の映像技術」「展示+パフォーマンスの一体利用」など、各種インスタレーション（空間アート）も可能。



インスタレーション



書道展（手前）+書道パフォーマンス（奥）の一体利用



平面イメージ

※上記はあくまでイメージのため、実際の計画内容とは異なります。

シーン5-2 最新の技術や製品に触れる

にぎわい

文化

つながり

公共

民間

- ・ 耐久性の高い床仕上とすることで、EV（電気自動車）などの大型展示も可能。



ホール内でのEVや絵画の展示

※上記はあくまでイメージのため、実際の計画内容とは異なります。

シーン6 新しい文化芸術を知る

にぎわい

文化

つながり

公共

民間

- 仮設舞台構築や持ち込み設備により、簡易な演劇利用にも対応。プロジェクションマッピングやバルコニー席活用など、このホールならではの演出が可能。
- 可動席を導入することで、演劇規模や、鑑賞スタイルにフレキシブルに対応。



プロジェクションマッピングによる演出



バルコニー席を使った演出



多角的な映像投影



可動席により、鑑賞しやすい環境を創出

※上記はあくまでイメージのため、実際の計画内容とは異なります。

シーン7

ふくしまや日本・世界の名産に出会う

にぎわい

文化

つながり

公共

民間

- 百貨店での人気コンテンツでもある物産展もこの場所で。
- 福島自慢の産品を集めたイベントはもちろん、北海道展など日本各地の名産品や、《手工芸》《多文化交流》《オーガニック》などテーマを絞った物産展・イベントも。



物産展（公共エリア）イメージ



福島自慢の県産品と物産館（民間エリア）イメージ

※上記はあくまでイメージのため、実際の計画内容とは異なります。

シーン8-1 多様なネットワークが生まれ、深まる

にぎわい

文化

つながり

公共

民間

- ・ 大規模な学会から市民利用まで、ホールの分割利用により様々な規模の会議利用に対応可能。
- ・ 立食パーティーで、さらにつながりが深まる。



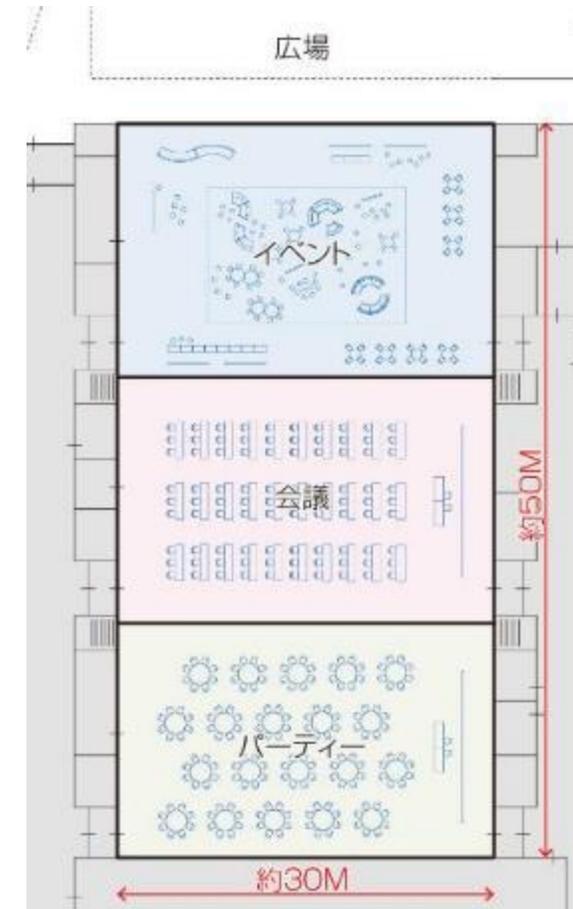
壁一面の大型スクリーンを使ったシンポジウム



立食パーティー



配信スタジオ



平面イメージ

※上記はあくまでイメージのため、実際の計画内容とは異なります。

シーン 8-2 新しいアイデアがひらめく

にぎわい

文化

つながり

- 企業周年イベント、研修、セミナーなど、企業にとっても利用しやすい環境。

公共

民間



研修・セミナー



企業周年イベント

※上記はあくまでイメージのため、実際の計画内容とは異なります。

シーン9-1 ふらっと立ち寄ってのんびりする

にぎわい

文化

つながり

公共

民間

- ・ 駅前通り側に、市民が日常的に利用できる屋内広場（仮称・まちなかりビング）を計画。
- ・ 施設に閉じずにまちとつながるしかけや、座って長く過ごせる居場所化の工夫を凝らす。市民の第2のリビングとして、家族や友人との団欒、イベント利用、学生の学習場所などの日常利用を促進し、多様なつながりを生み出す。



まちに開かれた子供向けイベント



自由に使える学習スペース



祭事品の展示



スキップフロアにより
多機能と緩やかにつながる



大階段によりイベントにも対応可能



ガラスの設えにより、
まちなかのショーケースとなる
※上記はあくまでイメージのため、実際の計画内容とは異なります。

シーン9-2 開放的な空間で憩う

にぎわい

文化

つながり

公共

民間

- 大屋根ひろば、屋上ひろばなど、施設内に複数のひろば空間を計画。
- 市民の憩いの場として日常利用できるだけでなく、ホール等と有機的に連携。



大屋根広場、屋上広場のイメージ

※上記はあくまでイメージのため、実際の計画内容とは異なります。

シーン 10 我が家のリビングのようにつろぐ

にぎわい

文化

つながり

公共

民間

- ひろばに面し、開放感のあるオープンテラスを設置したカフェ。
- 気軽に立ち寄り、心地よく過ごせる、福島駅前の散策の拠点。



居心地の良いカフェのイメージ

※上記はあくまでイメージのため、実際の計画内容とは異なります。

シーン 11 異なる価値観が交差する

にぎわい

文化

つながり

公共

民間

- ・ オフィスフロアには、一般的なオフィスに加え、福島の未来を創る起業家を中心に産官学をつなぐインキュベーション施設を検討。起業家たちの熱意とアイデアが交錯する、未来のビジネスが孵化する場所を目指す。
- ・ 空間のシェアや可視化により、ワーカー同士のつながりを自然と生み出す。



インキュベーションオフィスのイメージ

※上記はあくまでイメージのため、実際の計画内容とは異なります。

シーン12 同時に多様なシーンが生まれる

にぎわい

文化

つながり

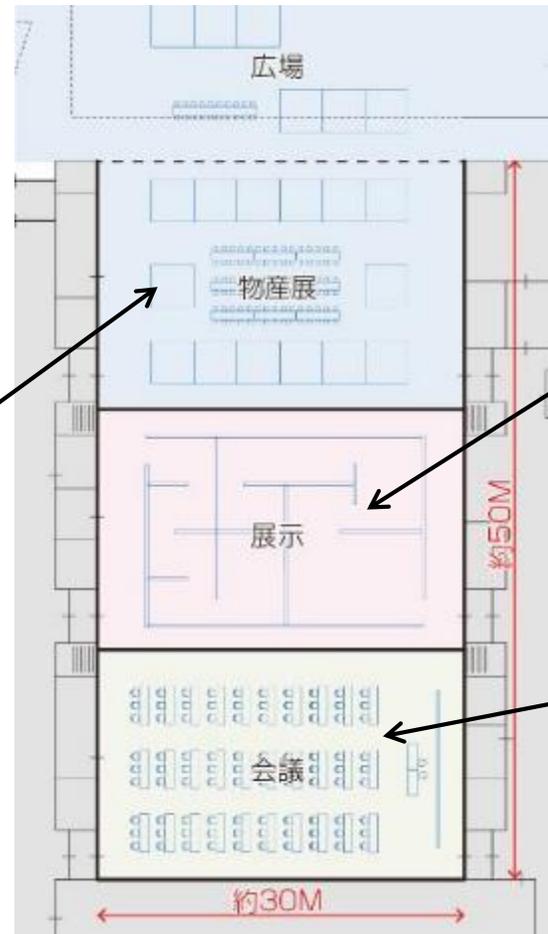
公共

民間

- 可動間仕切りにより、様々なイベントを同時に開催可能。
- 異なるイベントの参加者が偶発的に出会い、新たなにぎわいが生まれる。



物産展



平面イメージ



展示

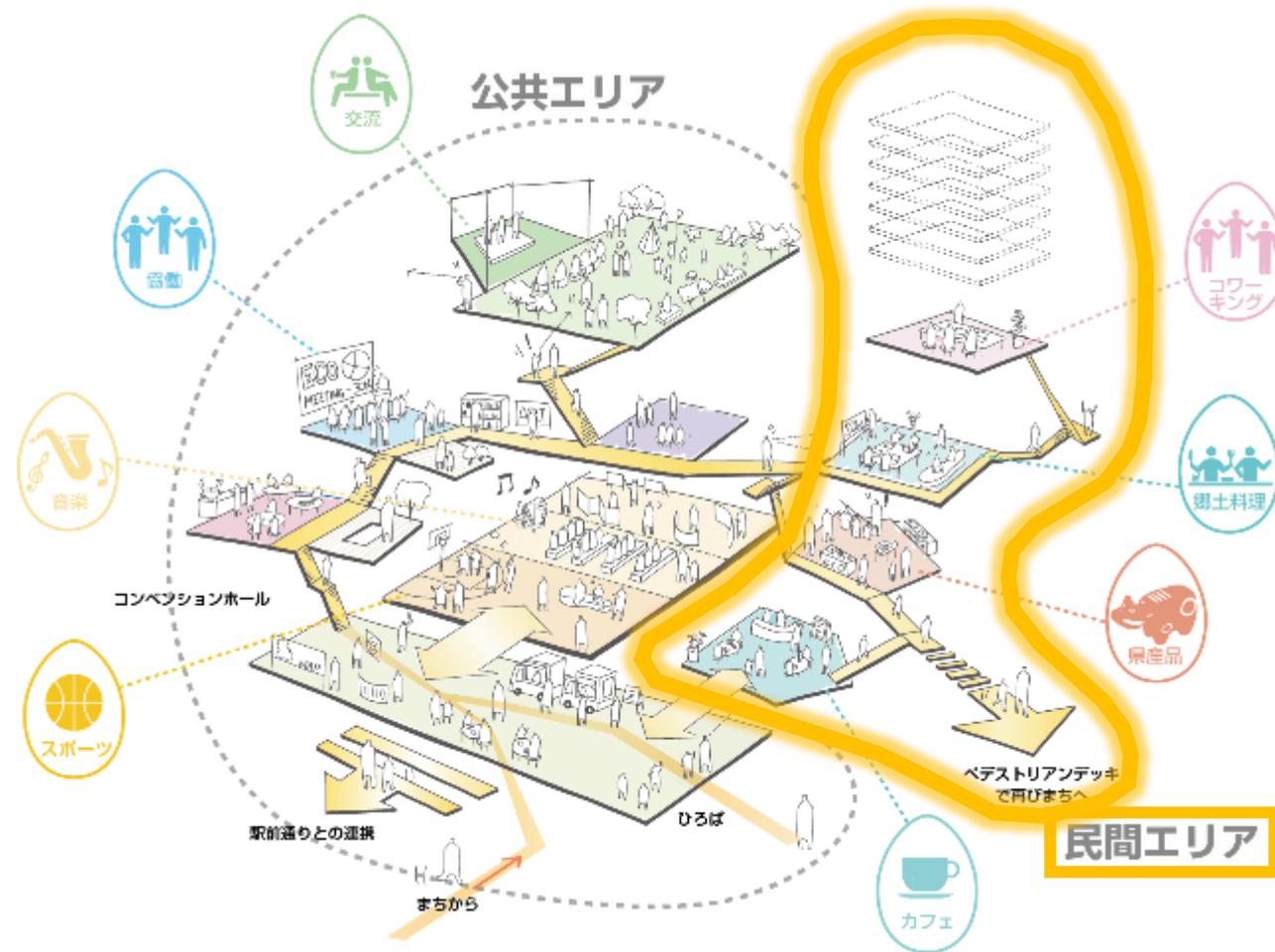


会議

※上記はあくまでイメージのため、実際の計画内容とは異なります。

商業・事務所棟(民間エリア)の施設イメージ

■施設全体イメージと、展開予定のコンテンツ案



※展開するコンテンツは予定であり、内容や位置等に変更になる可能性があります。

商業機能(飲食、物産など)



▲福島の美味しい食文化と、美味しいお酒とを気軽にワイワイ楽しめる新しいタイプの横丁型フードホール



▲福島自慢の特産品に出会える常設の物産展
(別途、公共エリアにおいても特産品やテーマ別の展示イベントが可能)



▲開放感のあるオープンテラスを設置したカフェ

業務機能



▲創造的ワーク交流スペース
(オフィス+インキュベーション)

東口再開発に関する見直し方針 《概要版》

福島市・福島駅東口地区市街地再開発組合

コンセプト

にぎわい

- ・用がなくても立寄りたくなる
- ・集客力の高い催しが開催できる
- ・施設に閉じずまちに開けている

『にぎわい・文化・つながりが生まれる《たまご》
=FUKUSHIMA EGG=』

つながり

- ・交流を生む環境がある
- ・市外からも人が集まる
- ・福島産品をはじめ、多彩なものと接する

文化

- ・産学民が使いやすい
- ・多彩な目的に使える
- ・演出の自由度が高い

市内外の多彩な人々が、集まり、混ざり、触発しあい、にぎわい・文化・つながりを生み出していく。
わくわくする未来が、つぎつぎと生まれる。
そんな豊かなたまごが福島駅前に誕生するよう、多様な利用シーンの実現を目指す。

事業概要

(1)施設構成

- 公共棟(保留床) …… フレキシブル・ホール(最大1,500人程度収容。3分割利用が可能な平土間式で、一階で大屋根広場とつながる)、会議室、スタジオ等、まちなかりビング、大屋根広場、屋上広場など
- 商業・事務所棟(権利床) … 飲食・サービス・物産店舗、創造的ワーク・交流スペース(交流機能が充実したインキュベーション施設、シェアオフィス、コワーキングスペース)など
- 住宅棟(保留床) …… 分譲マンション100戸程度
- 駐車場棟(権利床) …… 駐車場500台程度、駐輪場200台程度、権利者店舗

(2)スケジュール 令和10年度内の竣工、早期の供用開始を目指す

(3)事業費の見込みと経済効果 ※設計前でありプラン・仕様・設備が固まっていないため、数値は参考

- ①全体事業費 550～580億円程度
- ②保留床(市施設)取得費 250～270億円程度
- ③市施設管理運営費 年間6～7億円程度
- ④経済効果 40～50億円程度 (再開発エリア全体。ホール稼働率は85%として試算。)

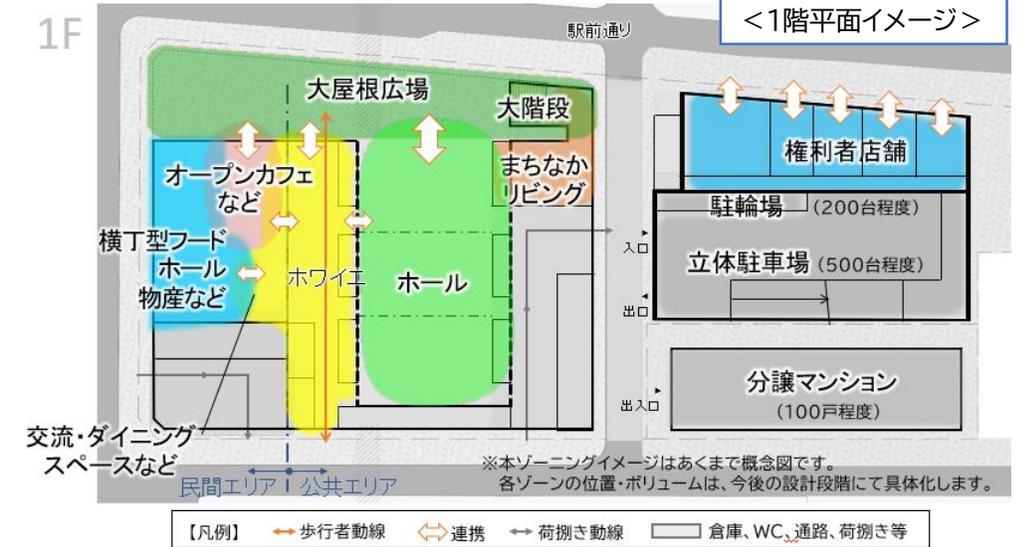
配置・断面イメージ



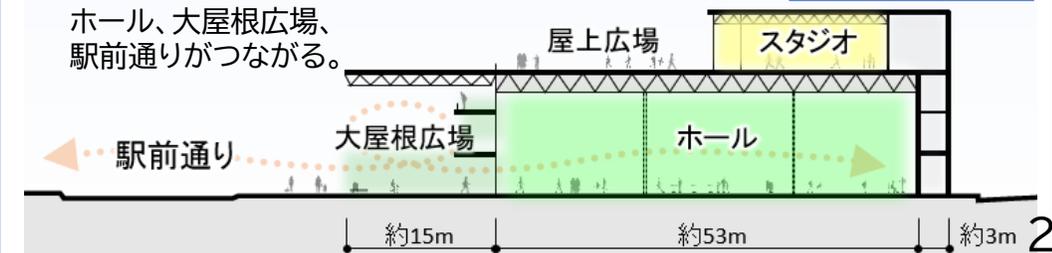
ホール、大屋根広場、駅前通りを一体的な空間として活用したり、駅前広場やまちなか広場と連携したりできる。

まちに開かれ、まちとつながる。

1F



<断面イメージ>



東口再開発に関する見直し方針 《概要版》

主な見直し

(1) にぎわい・文化・つながりが生まれるより多様なシーンを実現

3分割利用が可能な「フレキシブル・ホール」や大屋根広場、屋上広場、まちなかりビング、オープンカフェや横丁型フードホール、創造的ワーク・交流スペースで、より多様なシーンを実現

(2) まちに開かれ、まちとつながる

駅前通り、大屋根広場、ホールが地続きでつながり、これまでにない新しい空間が出現

(3) ワンストップ型から連携型へ

会議(コンベンション)、宴会(バンケット)、宿泊(ホテル)の各機能を周辺施設と分担・連携
※バンケット機能導入に向け引き続き検討・調整

今後の課題

- 劇場機能の確保 … 本格的な舞台芸術や高度な音響性能が必要な演奏会等は困難
市内の既存施設・機能を整理し、どのように確保していくか検討
- 市施設の運営管理 … コンセプトを共有でき、コンベンション誘致や先進的なイベント、市民イベントの企画支援、地域の情報発信力の強化など、意欲的にまちづくりを進められる運営管理者を速やかに選定
- 街全体の都市力向上 … 市民、行政、経済界などが一致団結して、常在人口等の活力基盤を強化しながら、エリア価値を向上させる投資呼び込み策を推進

見直しの考え方

○ 広域的拠点としての意義

➡ これまでと変わらない広域的拠点としての位置づけ

○ 街なか再生の起爆剤

➡ 大規模な民間投資の魅力に乏しい現状を変えるための公共投資。市施設や物産等による集客、住宅・オフィス供給による常在人口増加、駐車場・駐輪場整備による回遊性など「人が住む」「人が働き学ぶ」「人が集まる」「人が流れる」環境づくりに強いインパクト

○ コロナ禍を経た変化への対応

➡ 駅周辺の会議場、バンケット不足への対応、働く場の新たなコミュニケーション空間

○ まちに開かれ融合する施設、人々の憩いと交流の場の拡充

➡ まちと一体となった催事展開、まちなかりビング・大屋根広場・屋上広場等、まちなかや周辺地域への回遊

○ ふくしまの魅力の体感と情報発信

➡ ふくしまの食、物産、わらじまつりなど観光客向け情報発信

○ 社会的要請への対応

➡ ユニバーサル・デザイン、ZEB(省エネ性能)、防災安全性能

<休日イメージ>



<イベント時のイメージ>



<平日のイメージ>



※本画像はあくまでイメージです。内容は、今後の設計段階にて具体化します。

再開発におけるテナント交渉を踏まえた状況認識 ①

街なか衰退の構造的要因

- 集客力ある施設の減 ⇒ 週末イベントでカバー(地元との連携に課題)
- 居住人口の減 ⇒ 食品や日用品などの需要に影響
- 事業所数・従業者数の減 ⇒ ランチ、終業後のショッピング、ナイトライフなどの需要に影響
- 消費者行動の変容(車を店先などに停めて買い物や飲食をするなど目的のみ) ⇒ お店や商品などとの偶然の出会いが減



工事費高騰、コロナにより一層厳しい環境に
→ テナントも含め概ね成立していた再開発事業の見直し

見直し検討

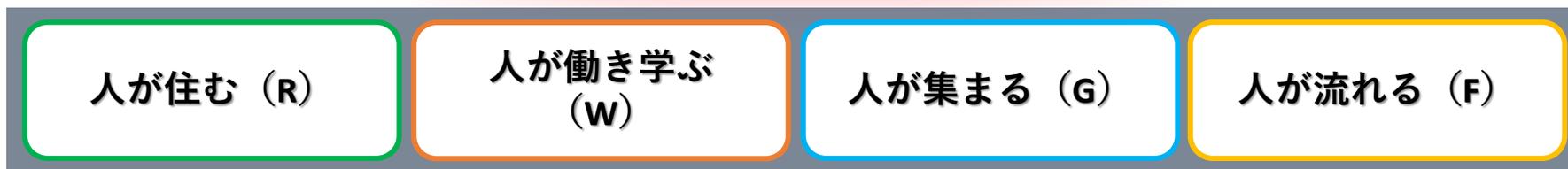
アパレル等物販、シティホテルの事業成立が難しいことが明確に。

- ・民間企業は、歩行者通行量や人口集積などのデータを基に投資判断。
- ・大規模な民間投資を呼び込むだけの魅力が乏しい街になっている。
- ・インパクトを与えられる、集客力ある施設整備は、現状、公共投資によらざるを得ない。
- ・事業が遅延すれば街なか再生がますます困難に。

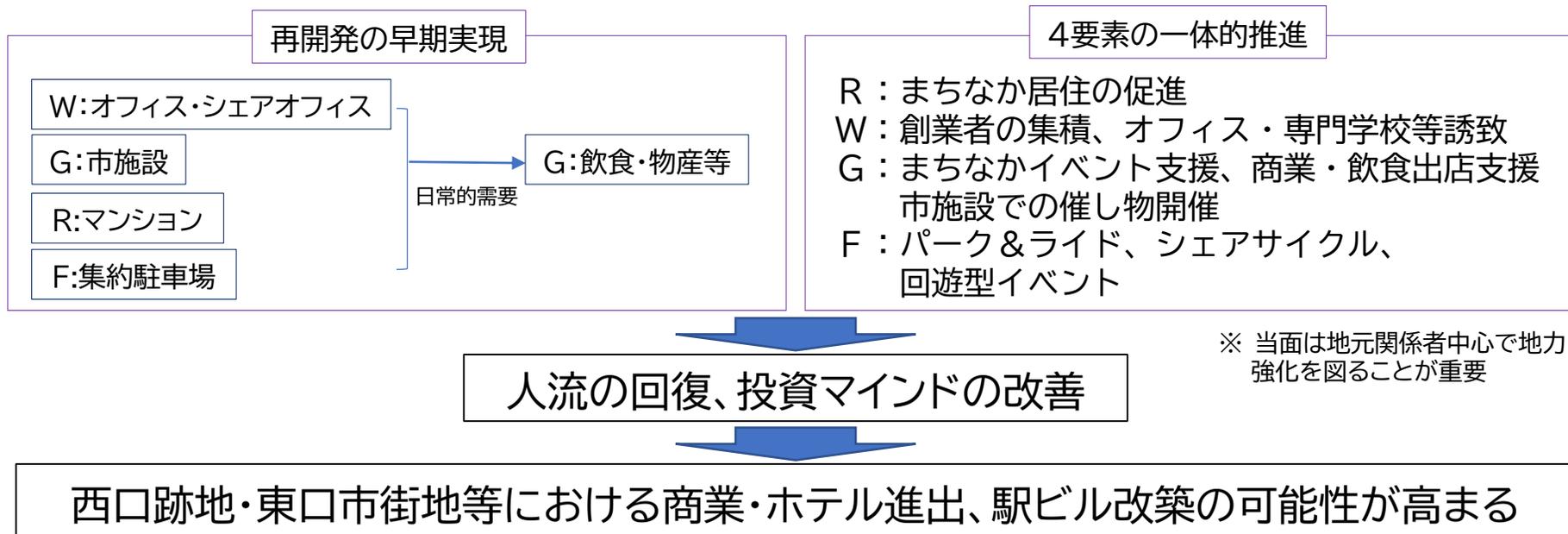
再開発におけるテナント交渉を踏まえた状況認識 ②

- 街なかの活性化、特に商業(アパレル等物販・飲食・サービスなど)の回復のためには、構造的要因への対応として、『人が住む』『人が働き学ぶ』『人が集まる』『人が流れる』の4要素を一体として取り組み、街なかの体質改善を図る必要。そのためには、**オール福島市での危機感の共有と自分事として関わっていくことが不可欠**。
- 再開発でその先鞭を切り、飲食物産・オフィス、市施設、マンション、集約駐車場を整備。その早期実現を図り、併せて4要素に係る他の施策を一体的に推進していくことで、西口商業施設跡地や街なかの低未利用地(コインパーキング等)への商業・ホテル進出、駅ビル改築の可能性が高まる。

街なかの体質改善への4要素～一体的に推進



再開発ゾーンでホテルやアパレル等は見込めないものの・・・



街なか再生のための都市力強化方策(素案)

福島市の街なかの再生のためには、その起爆剤として東口再開発を速やかに実現することが必要だが、その間も賑わいと活力を維持増進するとともに、街なか再生の好循環を可能とする活力基盤をつくっていくことが重要。

このため、「人が住む」「人が働き・学ぶ」「人が集まる」「人が流れる」の4要素を促進するための施策を一体として展開することにより都市力を強化するとともに、人流の回復と投資マインドの改善を図り、街なか再生を推進。

「人が住む」施策

- (拡) ① 空家バンク等による空家・空地の流通促進、住家への誘導
- (拡) ② 若い世代向けを中心とした市営住宅供給
- (新) ③ マンション供給促進
- (新) ④ 低未利用地の住家・マンションへの活用促進
- (新) ⑤ 街なか居住推進協議会(仮称)の設立と不動産業界等と連携した街なか居住の促進

「人が働き・学ぶ」施策

- (新) ① 地元事業所の街なか立地・回帰の促進(誘導策検討等)
- (拡) ② 起業家の街なか集積の促進
- (継) ③ 大都市等からの企業本社や支店の誘致
- (拡) ④ 大学のサテライトキャンパスや専門学校等の誘致
- (新) ⑤ 既存立地事業所の移転防止
- (拡) ⑥ 低未利用地や新規ビルにおけるオフィス等のスペース供給支援

街なか再生の4要素+街なか全体を強化する施策を一体的に展開

都市力強化
人流回復
投資マインド改善

「人が流れる」施策

- (継) ① 街なかパーク&ライドの利用促進
- (拡) ② もりんシェアサイクル、メロディバスによる街なか回遊促進
- (継) ③ 回遊イベント等の開催促進
- (新) ④ 駐車場適正配置計画の策定
- (新) ⑤ 共通駐車券事業の見直し充実

「人が集まる」施策

- (拡) ① 街なかイベント等の開催・支援と店舗等と連携した取組みの促進
- (継) ② 商業店舗等開設のための改修・家賃支援(特に魅力的・個性的な店舗等を誘導)
- (新) ③ ホテル誘致の推進
- (拡) ④ 低未利用地や新規ビルにおける商業店舗等のスペース供給支援【再掲】
- (継) ⑤ 街なか公共施設の再編と利用促進
- (拡) ⑥ 緑地エリアや親水エリアを活かした賑わいづくり
- (拡) ⑦ より人が集まる仕掛けづくり(例:サブカルなど個性的な企画の拠点化、有料観覧席の設置、こどもの参加促進など)

街なか全体の強化策

- (拡) ① 見て楽しい・歩いて楽しい街なかの形成(街並み形成、映えスポット、個性的な建物・空間等)
- (新) ② 区画整理等まちづくり事業の促進、助言等支援の強化
- (新) ③ 経済界と連携した地元事業者の街なか回帰運動の展開

福島市が目指す『コンパクト+ネットワーク』のまちづくり

既存の人口・都市機能・基盤集積を生かした効率的な都市経営を進めるため、従来の拡大・拡散型の都市づくりを転換し、生活環境を重視した持続可能な集約型の市街地誘導・形成と中心部や地域生活拠点などが連携するコンパクト+ネットワークのまちづくりを目指す。

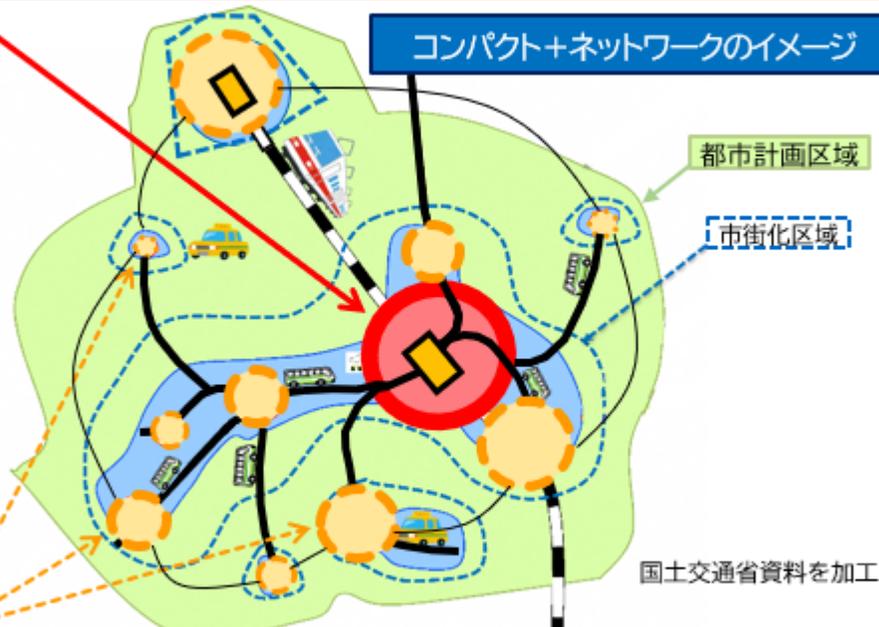
また、市街地内の生活環境の向上や各地域の市民生活を支える地域生活拠点の強化を図るとともに、周辺部における農業生産環境の整備、豊かな自然の保全、既存集落の維持・活性化を図り、市街地と周辺の自然・田園が調和した都市づくりを目指す。

【福島市都市マスタープラン(平成29年3月)】

中心拠点=広域的な拠点

市全体又は広域的に活用される高次都市機能を総合的に集積

行政、経済(業務、商業、コンベンション)、医療・福祉、大学・高校、文化、情報発信、まちなか居住等

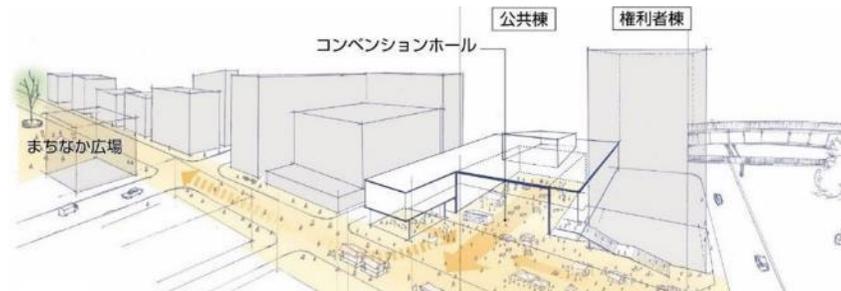


地域拠点

地域の特性に応じ、地域の市民生活を支える拠点、観光や工業、農業等の特定分野の拠点を形成

南矢野目地区(商業系拠点)、飯坂地区(観光、生活拠点)、大笹生地区(工業、交流・スポーツ拠点)、笹谷地区(居住系拠点)等

<東口再開発:コンベンションホール単独案のイメージ>



敷地面積 : 約14,000㎡
主要な用途: 住宅、商業、オフィス、駐車場・駐輪場、市施設
※県内外からの集客

(第2回 福島駅周辺まちづくり検討会資料より)

<南矢野目市有地の提案内容>



敷地面積 : 約28,500㎡
主要な用途: 市場、書籍・カフェ、イベント広場、子ども図書館など
※車で10分の商圈(5km)を想定

(イオンタウン(株)資料より)

これまでいただいた主なご質問など

Q1 なぜ、駅前で再開発を行っているのか？

A1 再開発全体としては、駅前の顔となる、「県都ふくしま」にふさわしい「持続性のある賑わい」拠点づくりを進めるためです。また、市としては、老朽化していた市民会館・公会堂の統合・移転と、駅前・中心市街地の活性化をねらいとしています。

Q2 立ち止まって、時間をかけて見直しをしてはよいのではないのか？

A2 時間をかけるだけ、福島駅前の空洞化が長引くおそれがあるほか、再開発の敷地内で以前から事業を営んできた方などへの営業補償や金利負担が増えています。

Q3 市の費用負担はどのぐらいを見込んでいるのか？

A3 市が再開発組合から取得する予定の施設の取得額は、250～270億円程度を見込んでいます。そのほか、金額は未確定ですが国・県と協調して補助による支援を行います。

Q4 当初予定していた公会堂の劇場ホール機能は、見直すとなると今後どうなるのか？

A4 市内の既存施設(音楽堂や県文化センターなど)と整理しつつ、その必要性を改めて検証し、それに応じて劇場機能のあり方や整備方策を検討していきます。

こんなご意見もいただいております。(一部抜粋)

- ・中途半端なものにならないようにしてほしい
- ・もっと早く事業を進めてほしい
- ・もっと市民の声を聞いてほしい
- ・日常的に使える場所があると賑わいにつながる
- ・ハコ(建物)よりも中身が大事
- ・足を運びたくなるような施設やまちにしてほしい
- ・ベンチなど休める場所やしつらえがほしい
- ・商業施設を充実させてほしい など

JR福島駅と東西自由通路の現状

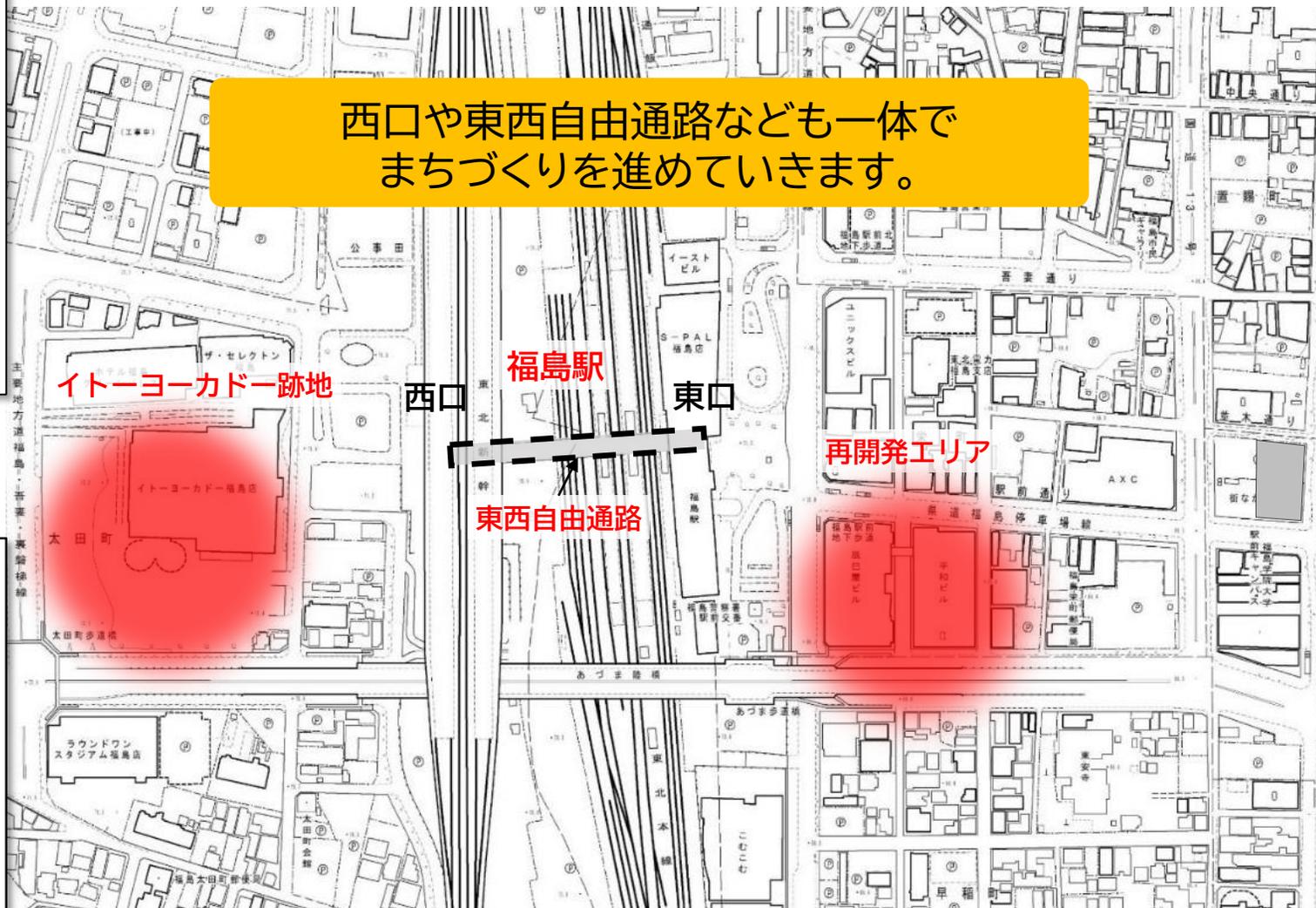
《イトーヨーカドー跡地の概要》

土地建物所有者：ヒューリック(株) (東京都中央区)
建築年次：1985年 (築39年)
構造階数：鉄筋コンクリート造3階建て
土地面積：約24,400㎡
延べ面積：約20,000㎡ (店舗11,373㎡)
建築面積：約7,800㎡
立体駐車場：約295台、平面駐車場：385台
用途地域：商業地域、準防火地域
指定容積率：500%、指定建蔽率：80% (地区計画)

《東西自由通路の概要》

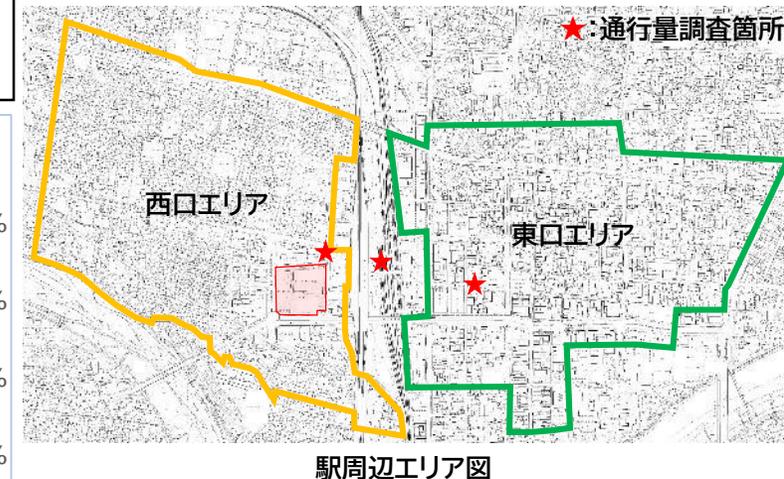
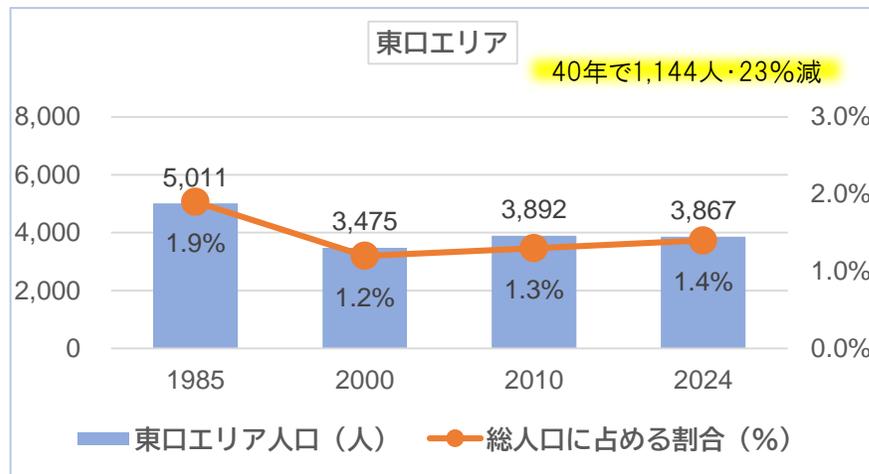
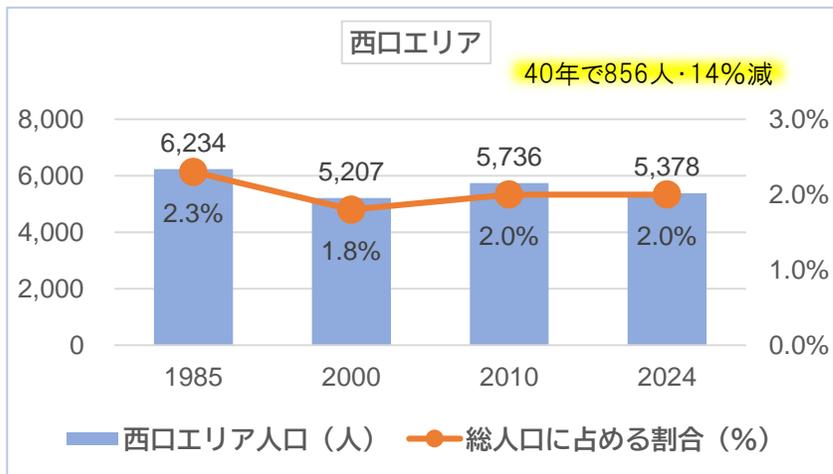
延長：189m 幅員：3.5~6.5m
出入口：東口1箇所 中央口1箇所 西口2箇所
供用日：昭和56年5月6日 ※中央口⇒H17.7供用
風格ある県都構想において中長期的な位置付け

- 元はJR (国鉄) の業務用連絡通路
- 利用者からは、出入口が分かりにくい、他の地下通路とつながっていない、暗くて怖い、などの意見がある



駅周辺の現状(居住人口・歩行者通行量)

- 西口エリアの人口(2024年)は東口エリアより1,511人多い。(約1.4倍)
- 両エリアとも2010年以降、ほぼ横ばい。総人口の約3.4%が駅周辺に居住。



- 西口駅前の歩行者通行量は、東口駅前と比較して、2010年(休日)は約1/3、2024年(休日)は約1/5。
- イトーヨーカドー閉店後、西口駅前の歩行者通行量は平日・休日ともに減少。

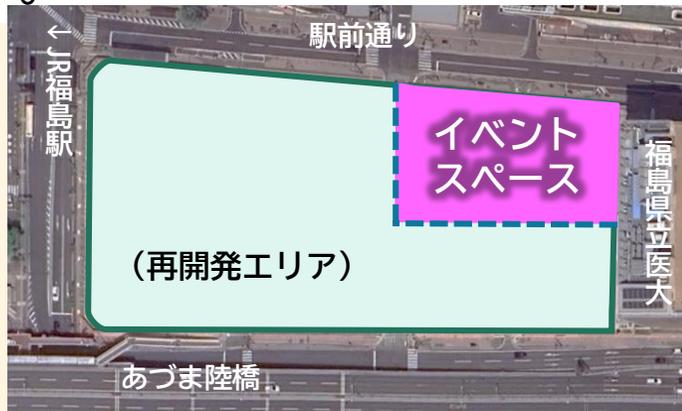


7 再開発エリアの活用

補正額：16,000千円

再開発エリアを工事着手までの暫定期間、イベントなどで活用できるように、仮囲いを一部移設してスペースを確保します。

- ・場所 再開発エリアの駅前通りに面する東側（約3,000㎡）



- ・期間 R6. 10月からR8. 2月頃（建築工事着工）まで



8 福島駅東西通行に関する社会実験

補正額：5,800千円

JR東日本と連携し、福島駅東西通行に関する社会実験を福島駅構内在来線コンコースで行います。

- ・実施期間 R6. 11月～12月のうち1か月間
※準備ができ次第実施

- ・通行時間 9時～21時
※エスパル改札口 10時～20時

- ・通行方法
 - ① 『TOHOKU MaaS』のWEBサイトでQRコード取得
 - ② QRコードを出入口の端末で読取



メモ